

ペルー 2025年の対日アボカド輸出が75%以上増加

[FreshPlaza 2025年12月8日](#)

アボカドはワラル果実輸出会社(リマ県ワラル郡)にとって最も重要な作物となった。同社は初年度に合計50コンテナを輸出し、そのうち40%を日本向けとした。この市場は幅広いサイズを受け入れるため、果実をより有効に活用でき、魅力的な輸出先として際立っている。

同社のアンドレア・マツサカ商務部長は、「弊社はハス種のアボカドを様々な市場に輸出することで全てのサイズの流通を支えてきた。この戦略は果実の利用を最大化し、採算の取れる選択肢を生産者に提供することを目的としたものである。シーズン序盤には日本だけでなく、中国、スペイン、オランダにも出荷した。シーズン中盤には輸出先をモロッコにも拡大した。グリーンスキンのアボカドは主にオランダに出荷した」と述べた。

マツサカ氏によると、日本市場の需要は着実に増加している。「ペルーから日本への輸出は、2025年これまでに前年比75%以上増加しており、メキシコの日本向け輸出量に近づいている（訳注：2025年10月までの日本の輸入量 ペルー19,177トン、メキシコ22,401トン。2024年通年 ペルー1,0841トン）。ペルー産アボカドは味わい豊かで、食感が良く、日本やその他のアジア諸国の嗜好に合っており、供給構造に大きな変化が見られる。この市場の需要期間が拡大し、我が国の高地における新たな生産機会を生み出している。」(同氏。以下同じ)

同社は2026年に200コンテナのアボカドを輸出する予定であり、そのうち80コンテナは既に日本向けに確定している。この量は前シーズンの2倍以上である。日本及びその他のアジア諸国向けの出荷には、実が固く、追跡可能で、均一な果実が求められる。「最大の課題は、適切な取り扱いを保証できる生産現場の戦略的パートナーを見つけることであった。」

「弊社では柑橘類の輸出シーズンも、ウンシュウミカン、プリモソーレ、Wマーコット、マルバセア、ハニーマーコットの各品種から近く始まる予定である。また、タヒチライム、マンゴー等の品目も年間を通じて導入する。アボカドの出荷シーズンと同様に、こちらの新シーズンも弊社に大きな成長をもたらすと期待している。」

執筆者：ダイアナ・サジャミ（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

日本 急成長するベリー市場の供給者と需要の見通し

[FreshFruitPortal 2025年12月9日](#)

市場データプラットフォーム Indexbox の報告書は、日本のベリー市場、特にブルーベリー及びクランベリーの市場は輸入の増加により今後10年間拡大し、2035年末までに累計190万トンに達するとしている。

同報告書によると、2024年におけるこれらベリーの消費量は前年と比較して3.5%増加した。最大の供給国はメキシコであり、2024年には1,100トンを生産し、日本の(生鮮)ベリー輸入の58%を占めた。この数量は第2位の供給国である米国(453トン)の2倍であり、チリ(270トン)が第3位で14%のシェアを占めた。

世界に向けた日本産ベリー

日本はクランベリー及びブルーベリーを国内でも生産しており、主に台湾及びタイへ輸出している。日本のベリー輸出は2024年に急増し、3.1トンに達した。これは2023年からの63%の驚異的な増加であるが、市場は概して比較的安定したペースで拡大してきた。同国は2022年に279%という最速の成長を記録した。輸出量は2013年に**3.2トン**のピークを迎えたが、その後日本のベリー市場はその水準に回復していない。

訳注：日本のクランベリー、ブルーベリーの貿易統計(本文関係)

0810.40-000 クランベリー、ビルベリーその他のヴァキニウム属の果実(生鮮のものに限る。) *ブルーベリーを含む

輸入 2024年 メキシコ1,107トン、米国453トン、チリ270トン、世界計1,895トン

輸出 2013年3,240kg、2021年626kg、2022年2,370kg、2023年1,980kg、2024年3,103kg

(参考)0811.90-130 その他のベリー(冷凍・加糖) *クランベリー及びブルーベリーを含む

輸入 2021年 ペルー 3トン(2020年及び2022~2024年は輸入実績なし)

0811.90-230 その他のベリー(冷凍・無加糖) *クランベリー及びブルーベリーを含む

輸入 2024年 カナダ13,506トン、チリ3,289トン、米国2,211トン、世界計23,337トン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)